

アグアスだより

2014年8月号

本校の英語教育

フランスでは小1から。中国・台湾・韓国・ドイツでは小3から。何のことでしょう？

学校における英語授業の開始学年です。授業時数も中国は週4コマ、韓国も5・6年生で週3コマ、台湾は週2コマと多くの時間を割り当てています。もはや国際語となった英語教育に各国が力を入れている様子がうかがえます。

日本でも「使える英語」を広めようと、文部科学省は昨年、小学校英語の早期化のほかに、中学では授業を英語で行うなどの方針を打ち出しました。現在、文部科学省の有識者会議で具体化に向けた議論がなされ、近々その提言が公表される見通しです。内容としては、小学校中学年で週1～2コマ、コミュニケーション能力の基礎を養う活動を行い、小学校高学年で週3コマ、初歩的な英語力を養う学習を行います。中学校では、授業を英語で行いつつ、身近な話題についての理解、情報交換、表現ができる能力を養うという方向のようです。こうした英語教育の導入は、学習指導要領の改訂を受けて、2018年から段階的に試行され、2020年のオリンピックの年には全面実施される見通しとなっています。

こうした時代の流れを受けて、本校でも、今年度から英語を小・中学校で週1コマ増やし、英語指導講師（以下「講師」）を増員して指導に当たっています。小学校では、小1から小4までを習熟度別クラスに分け、初級者クラスは日本人教員による指導、そのほかのクラスは、講師と日本人教員によるティ-

ムティーチング（TT）で指導が行われています（クラス別は2学期から）。さらに、小5以上中学までは、講師単独での英会話授業が行われています（2学期からTT制になります）。子どもによっては、こうした授業での経験がなく、授業にとまどう様子も見られますが、目を追うごとに講師との呼吸が合ってきているように感じられます。いずれ、保護者の方々にも、学校公開の折などに授業を参観していただこうと考えています。

さて、「スペイン語圏なのになぜ英語教育？」という感想を持たれる方もいらっしゃるでしょう。それは、さきほど各国の教育事情で述べたとおり、国際語としての英語が、日本でもメキシコでも重視されているという理由があります。本校が日常的に交流を行っている“フランセス校”でも、かなり高度な英語教育が行われており、中学生段階では英語が流ちょうに話せるという実態があります。当地でも、若い人にはかなりの程度英語が普及しています。つまり、メキシコでも国際語としての英語の活用範囲は広いと考えられるのです。

ここで、低学年クラスの英語活動の様子をご紹介します。ある日のこと、多目的室で講師と日本人教員が、英語の「動物の鳴き声」の授業をしていました。先生が、ブタの“絵カード”を出して「オインク、オインク」と鳴きまねをしてみせます。すると、子どもたちは「ブー、ブー」と続きます。先生が、犬のカードで「ワオーフ、ワオーフ」と鳴きまねをしてみせると、子どもたちは嬉しそうに「ワン、ワン」と続きます。カエルのカー-

ドで「リビット，リビット」と鳴きまねをしてみせると，子どもたちは“ヤッタ！”とばかりに「ゲロゲロ」。アヒルのカードで「クワック，クワック」と鳴きまねをしてみせると，子どもたちは「ガーガー」。ウマのカードで「ネィー，ネィー」と鳴きまねをしてみせると，子どもたちは声をそろえて一斉に「ヒヒーン！」。これが続きます。先生方はいくぶん疲れ気味の様子でしたが，子どもたちは目を輝かせて「もっと，もっと」とせがみます。見ている方は終始大爆笑。英語と日本語とでは，こんなにも表現が違うのか，ということに気づかされる楽しい授業でした。

(校長 大越邦生)

本校の本年度の研究について

学校では，各学校の特色や実態に合わせてテーマを設定し，校内で研究を行い，児童・生徒の学力向上等に努めています。

本校でも，昨年度まで国際教育に焦点を当て，研究を進めてきました。本年度からは，学力向上を中心としたテーマに重点を移し，研究を行っています。基礎基本の完全習得はもちろんですが，本校の課題である国語力（特に書く力）・計算力の克服に向け，研究テーマ「基礎学力の育成を効果的に図る学習指導方法の研究」をもとに，職員全員で切磋琢磨し合いながら取り組んでいます。

1学期の個人面談の際に，担任より NRT 学力検査の結果が返されたと思いますが，この結果を本校でも研究・分析し，各教科担当者が課題を把握した後，その課題を改善するために，どの学習で，どのような指導方法を行えばよいのかを考え，授業の中で活かして指導をしています。また，授業を研究する時間を設け，児童生徒がより効果的に課題を克服していくことができるようにしています。

本校の国語・算数の学力は，NRT 学力検査の結果から見ますと，総じて全国平均を上回っている分野が多く見られます。しかしながら，全国比を下回っている分野もあります。

国語で言えば，話す力・聞く力，文章を構成して書く力，文章を読解する力，漢字や言葉についての知識や定着度，算数・数学で言えば，計算力，関数に関わる問題，量や測定に関わる問題です。

これらの課題を改善していくために，日々研究を深めながら授業を行っています。長期的にはなりますが，今後もさらに研究を推進することで，児童生徒の学力向上に努めて参ります。

(研究主任 津曲康夫)

8月行事予定

- 1 1 日 (月) 始業式，トランスボルテ支払い
- 1 3 日 (水) クラブ
- 1 4 日 (木) 陸上競技①
- 1 5 日 (金) 授業参観，委員会
マイチャレンジ発表会①
- 1 8 日 (月) 先輩は語る（野口理事長）
豚井の日，読み聞かせ
マイチャレンジ発表会②
- 1 9 日 (火) マイチャレンジ発表会③
- 2 0 日 (水) 4時間授業，全体保護者会
学級懇談会，マイチャレンジ作品
掲示期間（～25日）
- 2 1 日 (木) 陸上競技②
- 2 2 日 (金) 実力テスト（中学部）
- 2 7 日 (水) 不審者対応訓練，クラブ
- 2 9 日 (木) 職場体験学習（中1）

2学期が始まり，学校に活気が戻ってきました！保護者の方々にご来校いただく日が多い月になりますが，どうかよろしく願いいたします。